ま なべ　　しゅくろう
眞鍋　淑郎　博士

事績

昭和６年、宇摩郡新立村（現 四国中央市）で出生、愛媛県立三島中学校を経て、東京大学理学部物理学科に入学、更に同学大学院に進まれ、昭和３３年には理学博士号を授与された。

また、同年に渡米され、米国気象局気象研究員等として気象に関する研究に従事されるとともに、昭和４３年にプリンストン大学において大気海洋研究プログラム教授待遇講師に就任し、コンピュータを活用して、温室効果ガスの増大と地球温暖化との関係を明らかにする、世界の先駆けとなる研究に取り組まれ、地球温暖化予測の礎を築かれた。

更に、平成元年に、国連の「気候変動に関する政府間パネル（ＩＰＣＣ）」の第一次評価報告書の執筆者となられるとともに、平成９年には、地球フロンティア研究システムの地球温暖化予測研究領域長に就かれたほか、再びプリンストン大学の大気海洋研究プログラムにおいて、平成１４年に客員研究協力者、平成１７年からは上級気象研究者として、地球温暖化に関する研究を続けられている。

二酸化炭素などの温室効果ガスが地球温暖化に影響を与える点にいち早く着目され、大気と海洋の循環を組み合わせた気候変動モデルを開発し、令和３年、ノーベル物理学賞を受けられた。

略歴

昭和　６年	宇摩郡新立村（現 四国中央市）に生まれる
昭和２８年	東京大学理学部物理学科 卒業
昭和３０年	東京大学数物系研究科修士課程 修了
昭和３３年	理学博士（地球物理学）
昭和３３年	米国気象局気象研究員
昭和３８年	米国海洋大気庁上級研究員
昭和４３年	プリンストン大学大気海洋研究プログラム教授待遇講師
昭和５８年	東京大学理学部地球物理学科客員教授
平成　９年	地球フロンティア研究システム地球温暖化予測研究領域長
平成１４年	プリンストン大学大気海洋研究プログラム客員研究協力者
平成１７年	プリンストン大学大気海洋研究プログラム上級気象研究者

昭和４１年	日本気象学会藤原賞を受賞
平成　４年	カール＝グスタフ・ロスビー研究賞を受賞
平成１０年	ミランコビッチ・メダルを受賞
令和　３年	文化勲章を受章
令和　３年	ノーベル物理学賞を受賞